

## 地域がん診療拠点病院について

わが国では、戦後、がんによる死亡が増加し、がん対策の中核研究医療機関として1962年(昭和37年)国立「がんセンター」を設立するとともに、がんに対する政策として、1984年(昭和59年)より「対がん10ヵ年総合戦略」、つづいて「がん克服新10ヵ年戦略」を推進し、がん発生や転移・浸潤のメカニズム、がん予防法、新しい診断・治療の開発、がん患者のQOLなど、がんについて研究が著しくすすみました。2004年4月より、「第3次対がん10ヵ年戦略」が開始されますが、がんの罹患率と死亡率の激減をめざしております。

一方、過去20年間のがんについての研究成果を臨床に生かすため、2次医療圏に1つの「拠点病院」を指定し、国民が日常生活圏の中で質の高いがん医療を受けることができるような体制を推進する政策が打ち出されました。

倉敷中央病院は、2003年12月に「地域がん診療拠点病院」に指定され、今後、地域のみなさまに質の高いがん医療を提供するとともに、地域の医療者のみなさまに研修会を通じて当院で行われているがん診療をご理解いただき、ともに協力してがん診療にあたるべく、病病連携、病診連携を密にする努力を重ねていきたいと思っております。また、地域住民のみなさまにも現在のがん診療についてよく知っていただくよう努力する所存であります。

今後とも、地域住民のみなさまの健康をお守りすべく邁進したいと存じます。

対がん10ヵ年総合戦略 (1984年~1993年)	がん克服新10ヵ年戦略 (1994年~2003年)	第3次対がん10ヵ年戦略 (2004年~)
1) ヒトがん遺伝子 2) ウィルスによるヒト発がん 3) 発がん促進とその抑制 4) 新しい早期診断技術の開発 5) 新しい理論による治療法 の開発 6) 免疫の制御機構および制御 物質	1) 発がんの分子機構 2) 転移・浸潤およびがん 細胞の特性 3) がん体質と免疫 4) がん予防 5) 新しい診断技術の開発 6) 新しい治療法の開発 7) がん患者のQOL	1) がんの本態解明 2) 基礎研究の成果の予防・ 診断・治療等への果敢な応用 3) 革新的な予防法の開発 4) 革新的な診断・治療法 の開発 5) がんの実態把握と情報・ 診療技術の発信・普及